

新エネルギーどう活用

秋田市で国際フォーラム開幕 250人、課題や可能性探る



風力や太陽光発電など、再生可能な新エネルギーの活用状況や課題について学ぶ「環太平洋自然エネルギー国際フォーラム」が一日、秋田市の秋田拠点センター・アルヴェで二日間の日程で始まった。

約二百五十人が参加し、国内外の講師による講演に耳を傾け、新エネルギーの可能性を考えた。

秋田大学、秋田県立大学、県、NPO環境あきた県民フ

参加者が国内外の講師の話に耳を傾けたフォーラム

フォーラムなどで組織する実行委員会（会長・吉村昇秋田大学長）の主催。

初日の一日は、経済産業省の渡邊昇治新エネルギー対策課長が講演。日本の新エネルギーの現状や政策を紹介し、「秋田県では風力発電が盛んだが、太陽光発電も積極的に導入できるように行政的な支援が必要」と強調した。

ロナルド・チェリー在日米国大使館エネルギー担当官は米国の新エネルギー政策について講演。「特に太陽光と風力発電の開発を進めており、商業施設などとも連携し、利用拡大を図っている」など説明した。

参加者はメモを取るなど、真剣な表情で話に聞き入った。授業の一環として参加した大曲南中三年生の奈良知宙君（二四）は「初めて聞く言葉がたくさんあり内容は難しかったが、自分の生活に深くかわるものとして考えていきたい。学校でも、省エネについて何か活動を始めたい」と話した。

きょう二日は午前九時から、温暖化防止のための取り組みやバイオマスエネルギー、地熱エネルギーの活用についての講演や、「秋田からとどけE.C.Oの風」と題したパネルディスカッションが行われる。アルヴェ一階きらめき広場には、ソーラーカーや風力発電用風車などが展示される。入場は無料。